

平成30年度病虫害発生予報第12号

平成31年3月4日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
コムギ	赤さび病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量は平年並か多い	± + ±～+

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

生育が早く葉色の濃い場所や過繁茂の場所を中心にほ場を見回り、発生を認めたら、ワークアップフロアブル、アミスター20フロアブルなどで防除しましょう。

多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	前年秋期の発生量はやや少ない 3月の降水量は平年並が多い	－ ±～＋
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	前年秋期の発生量はやや多い 3月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
ブドウ	黒とう病	多い	県全域	前年の発生量が多い	＋

・防除対策

[モモ・せん孔細菌病]

本日発表の「モモせん孔細菌病開花前防除情報」を参考に防除しましょう。

[ブドウ・黒とう病]

本日発表の「ブドウ黒とう病休眠期防除情報」を参考に防除しましょう。

・留意事項

名古屋地方気象台2月28日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%となっており、果樹の萌芽、発芽やりん片脱落など生育時期が早まる可能性があります。生育段階に合わせ、防除適期を逃さないように気をつけましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

前年秋にフジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬虫数が多くなっています。発芽前にマシン油乳剤を丁寧に散布し防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	コナガ	多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の降水量は平年並が多い 3月の気温は高い	＋ ±～－ ＋
タマネギ	白色疫病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量は平年並が多い	± ±～＋
	べと病	多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	葉かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並か少ない	- ±~+
	すすかび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±~+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± +
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±~+
	うどんこ病	少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない	-
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±~+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± +
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並か少ない	- ±~+
	うどんこ病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の気温は高い	- +

・防除対策

[キャベツ・コナガ]

本日発表の「平成30年度病虫害発生予察注意報第8号」を参考に防除しましょう。

[タマネギ・白色疫病]

発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。発生を確認した圃場では、ベトファイター顆粒水和剤やザンプロDMフロアブルなどで防除しましょう。

[タマネギ・べと病]

本日発表の「平成30年度病虫害発生予察注意報第9号」を参考に防除しましょう。

[トマト(施設)・灰色かび病]

発病果、発病葉は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。パレード20フロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[トマト(施設)・葉かび病]

発生を確認したら、スコア顆粒水和剤(ミニトマトを除く)やファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ナス(施設)・うどんこ病]

発生が多いほ場ではショウチノスケフロアブルやパンチョTF顆粒水和剤などで防除しま

しょう。

〔ナス（施設）・すすかび病〕

ダイマジンやアフェットフロアブルなどで防除しましょう。肥料切れに注意しましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

12月27日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考に防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

過剰なかん水は避けましょう。ベトファイター顆粒水和剤やランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

発病果、発病葉は速やかに取り除き、適切に処分しましょう。パレード20フロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

11月30日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第1号」を参考に防除しましょう。

・留意事項

施設野菜では、日照時間が少なく推移すると、灰色かび病などの病害の発生が増加する可能性があります。換気を十分に行い、必要以上に湿度を上げないようにしましょう。ほ場での発生状況に注意し、防除しましょう。

イチゴのアザミウマ類は例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するコナジラミ類が、気温の上昇に伴い増殖しやすくなります。黄色粘着板などを設置して発生状況に注意し、発生量が多くなる前に防除しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台2月28日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%